

都道府県等番号	学校名	課程	学科	指定期間
2	青森県立北斗高等学校	定時制の課程	普通科	26～28

平成26年度 高等学校における個々の能力・才能を伸ばす特別支援教育 研究開発実施報告書（要約）

1 研究開発課題

発達障害等のある生徒の将来の自立と社会参加を図るため、障害による学習上又は生活上の困難の改善・克服を目的とする、自立活動等を取り入れた特別の教育課程の編成及び得意分野を伸ばす教科指導の充実に関する研究開発。

2 研究の概要

対象となる障害のある生徒については、クラスの仲間とのコミュニケーションや時間の認知等に困難を示していることから、自立活動を教育課程に位置付け、「ソーシャルスキルトレーニング」等を中心とした指導を週1単位時間（年間35単位時間）設定する。特別支援学校等の協力を得ながら、個別の指導計画及び個別の教育支援計画を作成し、対象生徒の特別な教育的ニーズに応じた指導及び評価方法等について研究する。また、タブレット型端末を活用し、障害のある生徒とない生徒がともに学ぶ、一斉授業における理解しやすい授業づくり、個々の能力・才能をさらに伸ばす指導の工夫・改善を行う。

3 研究の目的と仮説等

（1）研究開始時の状況と研究の目的

対象となる障害のある生徒は、相手からの働きかけに対して理解はできているようであるが、緊張したり、どのように対応したらよいかと考えたりして、黙り込んでしまうことが多い。また、のんびりとした性格のため、遅刻をしたり、板書を書き写すことが間に合わなかったりするが、学習の理解度はある。自身の興味のあることには夢中になり、集中して取り組むことができる。

対象生徒に対しては、自ら適切に他者に関わることや、時間に合わせて行動するなど、コミュニケーション及び「自己の理解と他者や環境との調整に関するスキル（以下、人間関係の形成スキル）」等の獲得を目指した効果的な指導方法や、学習上及び生活上の困難を改善・克服するための、タブレット型端末を活用した指導方法に関わる研究を行う。

また、本校には、発達障害の疑いのある生徒が多く在籍しているため、障害のある生徒とない生徒がともに学ぶ、一斉授業における理解しやすい授業づくり等について取り組む。

（2）研究仮説

- ① 対象生徒は、「ソーシャルスキルトレーニング」等を中心とした指導を行うことにより、人間関係の形成スキル等を身に付けることができるとともに、タブレット型端末の活用により、学習上及び生活上の困難を改善・克服できる。
- ② 対象生徒が選択する科目において、全員がタブレット型端末を使用することにより、個に配慮した授業改善を行うことができ、対象生徒の学習意欲や理解力が向上する。
- ③ タブレット型端末の活用を含め、ユニバーサルデザインを取り入れた授業の工夫・改

善により、対象生徒以外の発達障害の疑いのある生徒や障害のない生徒についても、学習意欲や理解力等の向上につながる。

(3) 教育課程の特例

教育課程の特例の内容	指導内容	授業時間数・単位数等
ソーシャルスキルトレーニング（自立活動）の実施	自立活動において、ソーシャルスキルトレーニング等を中心とした指導を行う。コミュニケーションや人間関係の形成スキルの獲得及び学習上の困難の改善・克服を目指す。	週1単位時間 (年間35単位時間)

(4) 個々の能力・才能を伸ばす指導（現行学習指導要領における一斉授業の改善工夫等）

対象生徒への個別の支援では、板書内容の重要な部分を空欄にしたプリントを配布して記入できるようにするなど、作業を極力少なくする工夫をした。また、読む・聞く・書くという作業時間をしっかりと分けられるように、授業の構造化を図る。

(5) 研究成果の評価方法

人間関係の形成スキル等の獲得については、教員や生徒を対象としたアンケート調査や行動観察によって評価する。タブレット型端末の活用による学習における作業効率や理解力の向上については、授業中の行動観察や考査の結果等によって評価する。

4 研究の経過等

(1) 教育課程の内容

困ったときに他者へ援助を求められるようにする等の生活をする上で必要となるであろう人間関係の形成スキル等の獲得及び学習上の困難の改善・克服を目標とした、ソーシャルスキルトレーニング等を中心としたプログラムを作成し、週1単位時間（年間35単位時間）実施する。評価については、教員や生徒を対象としたアンケート調査や行動観察によって行う。

(2) 全課程の修了認定の要件

本校が定めた教育課程を履修し、その成果が満足できると認められる生徒について、校長は卒業を認定する。この場合、教科・科目を修得したと認定される単位の合計は、74単位以上でなければならない。

(3) 研究の経過

	実施内容等
第1年次	対象生徒について、教育的立場からの実態把握や医学的な立場からの情報収集等により、障害の状態や得意分野等についての的確に把握し、個別の指導計画を作成した。それにより、自立活動におけるコミュニケーションや人間関係の形成の内容として、「ソーシャルスキルトレーニング」等を中心とした指導を週1単位時間（年間35単位時間）設定し、自立活動等担当教員を配置して実施した。また、タブレット型端末を活

	用した指導方法の検討や、外部講師を活用した個々の能力才能を伸ばす指導方法の検討を行い、試行的に実施した。
第2年次	自立活動における人間関係の形成の内容として、「ソーシャルスキルトレーニング」等を中心とした指導を週1単位時間(年間35単位時間)設定し、自立活動等担当教員を配置して実施するとともに、障害のない生徒も含めたコミュニケーション能力の向上を図るための講習会を実施する。また、タブレット型端末を活用した指導方法及び外部講師を活用した個々の能力・才能を伸ばす指導方法を実践する。
第3年次	自立活動における人間関係の形成の内容として、「ソーシャルスキルトレーニング」等を中心とした指導を週1単位時間(年間35単位時間)設定し、自立活動等担当教員を配置して実施するとともに、障害のない生徒も含めたコミュニケーション能力向上のための講習会を実施する。また、第2年次の研究内容を踏まえ、タブレット型端末を活用した指導方法及び外部講師を活用した個々の能力・才能を伸ばす指導方法の工夫・改善を行い、実践する。さらに、研究の総まとめを実施する。

(4) 評価に関する取組

	評価方法等
第1年次	人間関係の形成スキル等の獲得については、行動観察等によって評価した。タブレット型端末の活用による学習における作業効率や理解度の向上については、授業中の行動観察や考査の結果等によって評価した。
第2年次	第1年次の評価を研究内容に生かして実施する。人間関係の形成スキル等の獲得については、教員や生徒を対象としたアンケート調査や行動観察によって評価する。タブレット型端末の活用による学習における作業効率や理解度の向上については、授業中の行動観察や考査の結果等によって評価する。
第3年次	第2年次の評価を研究内容に生かして実施する。人間関係の形成スキル等の獲得については、教員や生徒を対象としたアンケート調査や行動観察によって評価する。タブレット型端末の活用による学習における作業効率や理解度の向上については、授業中の行動観察や考査の結果等によって評価する。3年分の評価結果をまとめる。

5 研究開発の成果

(1) 実施による効果

① 対象生徒への効果

コミュニケーションについては、自立活動を実施する前は指示待ちが多く、自分から話しかけたり、声を出したりすることが少なかった。しかし、自立活動における指導を進めていくことにより、ソーシャルスキルトレーニングのウォーミングアップの際に、複数のメニューの中からやりたいことを自ら選び、決めることができるようになったり、楽しい時には笑い声を出し、嫌なことに対して適切に意思表示をしたりする様子が見られるようになった。また、慣れた教員に対して必要なことを自分から質問するなど、自発的にコミュニケーションをとろうとする場面が見られるようになった。

た。時間管理については、携帯電話のアラームの活用を試みたがほとんど変化が見られなかったため、遅れる時には電話連絡をするなどの別の対処法を指導し、活用することができるようになった。

タブレット型端末の活用については、興味・関心が高く、文字を書いてコミュニケーションをとるアプリケーションソフトなどを使用し、文字で書いたことについて言葉で補足するなどの場面が見られるようになった。しかし、途中から、コミュニケーションスキル向上のためのソーシャルスキルトレーニングを実施することよりも、タブレット型端末自体を操作することの方に興味・関心が移ってしまったため、使用を中止した。タブレット型端末の活用により、コミュニケーション能力の向上が期待できるが、目的に沿った使用ができるよう、学習に取り入れる上では十分配慮する必要がある。

② 教員への効果

教員本位の教材研究や授業展開ではなく、生徒の実態に応じた、より効果的な授業が今まで以上にできるようになった。特に、板書において、授業者が示す量や生徒が書き写す量を調節することにより、生徒自身が考える時間をより多く設けることなどができるようになった。さらに、教員側に、生徒一人一人をしっかりと捉えようとする姿勢が一層見られるようになった。

③ 保護者等への効果

(保護者)

情報交換を密にすることで、学校や家庭における様子、担当医の話など、生徒の情報を共有し、保護者の要望などを指導に取り入れることが可能となった。それによって、信頼関係がより深まるとともに、学校と家庭が同一歩調で支援に臨むことができた。

(他の生徒)

対象生徒と他の生徒との間に教師が入りコミュニケーションを支援することにより、他の生徒の対象生徒への理解が深まるとともに、両者の関わりが増えた。

(2) 実施上の問題点と今後の課題

個別指導については、「ソーシャルスキルトレーニング」の時間に人間関係の形成スキルの獲得のためのプログラムを準備したものの、授業における板書等の作業効率を上げるなど、普段の授業に役立つ即効性のある支援がより必要となり、そちらに力点を移した。対象生徒が今年度で卒業したため、第2年次の対象生徒の選定と、内容について再考が必要である。

一斉授業における指導においては、教室環境整備について教職員間の共通理解がまだなされていないため、ユニバーサルデザインの視点に立った手立てを導入しようとする、ホワイトボード等必要なものをその都度持ち歩かなければならなかった。今後、学校全体で共通理解のもと教室環境が整備されれば、今以上にやりやすくなると思われる。

一斉授業におけるタブレット型端末の活用については、複数のタブレット型端末を一度に使用するための環境整備も含めた準備の完了が大幅に遅れたため、教員対象に使用方法に関する講習会の開催までしかできなかった。今後、効果的な活用を目指した更なる検討が必要である。